

第3 三瓶地域

1. 地域の現況

三瓶地域は、市の北西部、宇和海沿いに位置します。地域を縦断するように国道378号が、地域を横断するように主要地方道宇和三瓶線が走り、周辺他地域・他市と接続しています。

地域の中心部には都市計画区域の指定があり、用途地域が指定されています。

三瓶支所周辺は、三瓶地域の生活拠点であり、生活サービス施設や公共交通が一定充実しています。三瓶生活拠点に立地する「みかめ海の駅・潮彩館」は、海の観光拠点として、市内外から観光誘客を図っています。

三瓶地域は、「奥地の海」に位置する漁村集落から発展してきた地域であり、水産業が盛んな地域です。波静かな三瓶湾に、漁村集落の面影を残した市街地が形成されています。



■位置図



■三瓶の海と空



■須崎海岸（※市HPより）



■三瓶文化会館



■三瓶湾

【三瓶地域 地域別構想 骨子案】

地域の主な施設や地域資源等		
道路	一般国道	国道 378 号
	主要地方道 ・一般県道	八幡浜三瓶線、宇和三瓶線、穴井三瓶線、俵津三瓶線
主要な施設		三瓶支所、三瓶病院、三瓶保健福祉センター、コスモス館、A コープみかめ店、三瓶高等学校、みかめ海の駅・潮彩館、西予市三瓶文化会館、西予市朝立会館 等
地域資源		三瓶湾、須崎海岸、さざえが岳 等
都市計画	用途地域	第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域
	都市計画道路	整備済み 4 路線：朝立屋敷線、朝立津布理線、朝立海岸線、畑岡朴線 未整備 1 路線：朝立有網代線
	都市計画公園	整備済み 1 箇所：三瓶中央児童公園 未整備（一部供用済み）2 箇所：津布理公園、三瓶公園
	その他	公共下水道（雨水下水）が整備中

2. 地域の課題

- ・市全体と同様に、三瓶地域でも高齢化・人口減少傾向が続いており、都市計画区域内・用途地域内においても同様の傾向です。また、山間部や海岸沿いの集落で人口減少傾向が顕著です。
- ・空き家・空き地が増加傾向であり、特に用途地域内で空き家・空き地が多くなっています。また、三瓶地区の商店街は空き店舗が増加しつつあります。空き家・空き地・空き店舗の発生抑制、活用が必要です。
- ・三瓶地域では都市計画道路が 5 路線決定されていますが、そのうち朝立有網代線は未整備となっており、三瓶地域内の都市計画道路の総整備率は 85.0%となっています。都市計画道路をはじめ、日常生活に必要な不可欠な道路の整備・維持管理が必要です。
- ・三瓶生活拠点周辺には、民営路線バス（宇和島自動車）の三瓶営業所が立地しています。バスは、国道・主要地方道を民営路線バスが運行しており、地域内の集落を概ねカバーしています。しかしながらバス利用者は少なく、公共交通の利便性向上と利用促進が必要です。
- ・三瓶市街地では雨水公共下水道が整備中であり、引き続き整備の推進が必要です。
- ・三瓶地域は、宇和海に直接流出する河川の水系となっており、内水氾濫等を防ぐため、河川の浚渫や適切な維持管理が必要です。
- ・三瓶市街地及び海岸部に立地する集落では、津波による甚大な被害が懸念されています。また、三瓶市街地内は家屋が密集しているところがあり、火災等における被害が懸念されることから、災害時の安全性確保が必要です。

3. 地域づくりの方針

地域づくりの方針では、三瓶地域の将来像とまちづくりの方針を示すとともに、『こうなったら良いな』『こうなりたい』と思う「三瓶地域の暮らし」の姿を展望します。

将来像		<p style="text-align: center;">『港と交流のまち』</p> <p>■漁業、農業が盛んな食と交流のまち</p> <p>■三瓶支所を中心に生活利便施設が集まる便利なまち</p>
まちづくりの方針		<ul style="list-style-type: none"> ・三瓶支所周辺は、三瓶地域の生活拠点として、生活利便施設、行政、文化施設等が集積した商業業務地を形成します。 ・生活拠点周辺の市街地は、歩いて生活利便施設へ行くことができる住宅地を形成します。 ・小さな拠点（周木、二本生、蔵貫）は日常生活に必要な機能の維持・確保を図るとともに、宇和中心拠点への交通ネットワークを維持・充実します。 ・優良農地や集落の保全に努め、田園景観を維持します。 ・須崎海岸等、四国西予ジオパークの自然環境を保全します。
三瓶地域の暮らし (展望)	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・リアス海岸、ジオサイトに位置づけられている須崎海岸など自然景観や奥地アジなどの海産物を楽しむ観光客が多く訪れている。 ・夏は、海水浴や屋形船を楽しむ観光客や市民が多く訪れ、宿泊施設や飲食施設が増え始めている。
	買い物	<ul style="list-style-type: none"> ・銀天街のアーケードの撤去や大街道の修景整備、海の家再整備が行われ、商店街の空き店舗にもちらほら新たな店舗が出店し始めている。 ・以前は大洲市へ行っていた週1回程度の大きな買い物には、宇和地域に整備されているショッピングセンターへ家族で訪れ、買い物も楽しんでいる。
	文化・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・三瓶文化会館一帯は、行政機能、学校、保育園などが立地し、地域住民が多く利用しており、歩いて暮らせる距離に移住する人が増えてきている。 ・西予文化会館や朝立会館では、「朝日文楽」などの地域の伝統文化の継承が積極的に行われ、若い後継者も育ってきている。
	働く場	<ul style="list-style-type: none"> ・八幡浜三瓶線・宇和三瓶線沿道に新たな企業を誘致し、まちの新たな産業基盤となっている。
	医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・宇和地域の西予市民病院までは、地域で支えるバスが各地区を結び、お年寄りも気軽に通院出来るようになっている。

4. 部門別まちづくりの方針

全体構想の「部門別・まちづくりの方針」の体系に基づき、各地域で具体的に実施する都市計画・まちづくりの施策を位置付けます。

1) 土地利用

(1) 生活サービス機能ゾーンの整備方針

①生活拠点周辺の整備

- ・三瓶支所周辺の教育・文化施設や保健・福祉施設が立地する地区は、三瓶地域の日常生活を支える生活拠点として、既存の生活サービス施設の維持・更新に努めます。
- ・将来を見据えた各施設の機能の集約、規模の適正化等に取り組みます。
- ・旧役場跡地の活用方法を市民と協働して検討します。
- ・生活拠点周辺における市道の舗装改良に取り組みます。
- ・生活拠点を核とした持続的なまちづくりに向けて、市民、商業事業者等と行政が協働したエリアマネジメントの導入に取り組みます。

②みかめ海の駅・潮騒館の機能強化

- ・三瓶港の「みかめ海の駅・潮彩館」を本市の観光拠点として、機能強化を図ります。
- ・みかめ海の駅・潮彩館と市役所周辺を結ぶ商店街を地域のシンボル軸とし、シンボル軸の沿道において生活サービス施設を誘導します。

③商店街の整備

- ・三瓶市街地の商店街（銀天街）においては、多くの店舗が閉鎖し、空き家・空き店舗が増加しており、活性化が課題となっています。
- ・銀天街のアーケード撤去を支援するとともに、道路舗装の高質化や老朽水道管の更新、街路灯の整備等により、開放的で魅力的な商業空間を形成します。
- ・個別商店の魅力向上に向けた支援に取り組むとともに、空き家・空き店舗を活用して起業・開業する人を支援します。
- ・商店街に近接する住宅密集地の解消に努めます。

(2) 市街地ゾーンの整備方針

- ・三瓶市街地は、海岸部に立地する漁村集落が発展したものであり、比較的密集した住宅地が形成され、また津波による被害も想定されています。この地区においては、ハード対策・ソフト対策の両面から、災害に強いまちづくりを推進します。
- ・防災・減災対策を十分に講じながら、既成市街地で増加しつつある空き家・空き地を活用し、生活拠点の周辺など便利な地区において居住の誘導に努めます。
- ・三瓶市街地における朝立川の右岸山麓沿い、谷道川の右岸に分布する低層住宅地、中低層住宅地においては、地域の要望を踏まえながら生活道路の確保を図り、良好な居住環境を整備します。

(3) 一般宅地ゾーンの整備方針

- ・一般住宅地では、良好な居住環境の維持・形成に向けて、優先順位を見極めながら区画道路の整備を図るとともに、空き家・空き地の発生抑制対策や利活用を検討します。

(4) 産業ゾーンの整備方針

- ・三瓶市街地の主要地方道八幡浜三瓶線、宇和三瓶線沿いの工業地への企業誘致を促進します。

(5) 集落・農地ゾーンの整備方針

①集落環境の整備

- ・三瓶地域の海岸部には、漁村集落が発展した既存集落が点在しており、既存集落においては、生活道路の維持・管理、小型合併処理浄化槽の設置促進等により、居住環境の整備を推進します。
- ・海岸部の既存集落では、津波による被害が想定されていることから、避難警戒体制の充実に努め、必要な防災・減災対策を実施します。

②小さな拠点の整備

- ・公民館（集会所）や旧小学校等を核に、旧小学校エリアに設置する地域づくり団体が主体となって行う小さな拠点づくりを支援し、市民と協働で必要となる生活サービス機能の維持・確保について検討します。
- ・三瓶地区の小学校再編に伴う、学校施設の改修に努めるとともに、休校・廃校となった校舎は、企業や住民団体による利活用を促し、地域の活力向上につなげていきます。
- ・手上げ型交付金制度を活用し、小さな拠点等において、市民が主体となった地域づくりを支援します。

③農地の保全

- ・森林や河川、湖沼、海岸など、三瓶地域の豊かな自然の適切な保全と活用を図ります。

2) 都市施設

(1) 道路・交通ネットワークの整備方針

①道路の整備

ア) 広域連携軸の整備

- ・一般国道は、本市の広域連携軸を構成しており、国や県と連携しながら、市内外、さらには県外との連携強化に向けて整備を促進します。
- ・国道 378 号の改良を継続して要望・実施するとともに、主要幹線道路を適切に維持します。

イ) 拠点連携軸の整備

- ・拠点間を結ぶ主要地方道は、本市の拠点間連携軸を構成しており、概ね整備が完了しています。引き続き県と連携して機能維持を図ります。

- ・一般県道は、本市の地域連携軸を構成しており、引き続き県と連携して機能維持を図るとともに、優先的に整備すべき県道を定め、整備を促進します。

イ) 生活道路の整備

- ・主要な市道など地区の幹線道路、区画道路の適切な維持管理を図ります。
- ・三瓶市街地の居住を誘導する区域内における住宅密集地では、優先的に整備すべき路線を見極めながら、狭隘な道路の拡幅等に努めます。
- ・市民のニーズや財政状況を見極めつつ、優先的に維持・管理する路線や整備する路線を定め、維持・管理及び整備を推進することにより、日常生活の利便性の向上に努めます。

ロ) 歩道の確保

- ・歩行者の安全な通行を確保するため、主要な道路において歩道を整備中であり、引き続き歩道の整備を推進します。
- ・また、国道 378 号沿いの海浜部において、遊歩道の整備を検討します。

ハ) 都市計画道路の整備

- ・地区幹線道路となっている都市計画道路については、その必要性・実現性を見極めて見直しを行っており、引き続き見直しに努めます。
- ・必要性の高い路線について、計画的な整備に努めます。

②公共交通網の構築

- ・新たに策定した「西予市地域公共交通網形成計画」に基づき、市内のすべての集落からの日常的な「おでかけ」を確保するための公共交通を確保します。
- ・公共交通を地域・利用者・市民で支える意識を醸成し、公共交通の利用を促進します。
- ・宇和島自動車の三瓶営業所周辺など交通結節点での乗り継ぎの円滑化、スクールバスの活用など、公共交通のさらなる改善・利便性の向上に向けて、市民とともに検討を行います。

(2) 公園・緑地の整備方針

- ・新たに策定した「西予市緑の基本計画」に基づき、公園の整備を進めます。
- ・市民と協働しながら、地域の骨格となる緑を守り育て、日常の憩い・交流の場となる緑地づくりを図ります。
- ・中央児童公園や港湾緑地公園など、既存の公園・広場を活用しながら、身近に利用できる公園・広場を確保します。
- ・三瓶地域の海岸・海浜は地域の憩いの場となっており、「四国西予ジオパーク」の取組と一体となって、公園・緑地として利用できるよう、海岸・海浜の保全整備を図ります。

(3) 下水道・河川の整備方針

①下水道の整備

- ・三瓶市街地における雨水公共下水道の整備を推進します。

- ・ 住環境の改善と公共用水域の保全を図るため、小型合併処理浄化槽の設置促進等に努めます。

②河川の整備

- ・ 三瓶地域は、宇和海に直接流出する河川の水系となっており、内水氾濫等を防ぐため、県と連携しながら、朝立川・谷道川等の河川浚渫や適切な維持管理に取り組みます。

3) 自然・景観

(1) 自然の保全・整備の方針

①水辺の保全・整備

- ・ 海域は、稚魚放流活動の支援により漁業資源の保全・確保を図るとともに、小型合併処理浄化槽の設置等を促進し、水質汚濁の防止を図ります。
- ・ 臨海部においては、三瓶港の「みかめ海の駅・潮彩館」の拠点形成を推進するとともに、アウトドアイベントの開催等によるレクリエーション機能の強化を図ります。
- ・ 県営治山事業の推進、小型合併処理浄化槽の設置促進等により、河川の水源涵養機能の増進と河川環境の維持・保全に努めます。
- ・ 老朽ため池の整備、管理者不在で防災上問題のある農業用ため池の廃止に取り組みます。

②農地の保全・整備

- ・ 三瓶地域の農地としては、傾斜地に大きく広がる柑橘園が中心であり、市街地以外の代表的な土地利用となっています。
- ・ 柑橘園として維持管理されることが土砂災害の防止にもなっていることから、営農活動の支援や地域活動の支援を行うとともに、「四国西予ジオパーク」の取組と一体となって、石積みや段々畑、果樹園の保全・育成に努めます。
- ・ 市民と協働し、農業の担い手や経営体の育成と経営規模の拡大支援、集落営農の促進、農地流動化対策等に取り組みます。

③森林の保全・整備

- ・ 森林は、傾余地に広がる柑橘園の上部の尾根線一帯に分布しています。適期伐採による森林機能の保全を図るとともに、路網整備により適切な森林の整備に努めます。
- ・ 市街地及び集落の背後に位置する里山の保全・育成を図るものとし、間伐等の適切な管理に努めます。

④自然の活用

- ・ みかめ海の駅・潮彩館や四国西予ジオパークの「サイト」等、観光資源と一体となって自然資源の活用を図ります。
- ・ ジオスポットを活用したフットパスコースを整備し、ジオパークの新たな楽しみ方を提供します。

(2) 景観の保全・整備の方針

①市街地景観の保全・整備

- ・みかめ海の駅・潮彩館と市役所周辺を結ぶ商店街は地域のシンボル軸として、市民・事業者と協働しながら景観形成を図ります。

②自然景観の保全・整備

- ・森林、海浜・河川、果樹園等は、本市の景観の骨格となることから、「四国西予ジオパーク」の取組や市民と協働した活動により、適切に保全・整備を図ります。
- ・漁村集落においては、まとまった住宅地区と周辺の果樹園を海域や山地が取り囲み、良好な景観が形成されています。これらの景観を市民と協働して保全するとともに、景観に調和した居住環境の整備を推進します。
- ・地域ならではの景観の形成に向けて、**四国西予ジオパークの「サイト」等**、周辺の景観保全について検討を行います。

4) 防災・減災

①防災・減災体制の確立

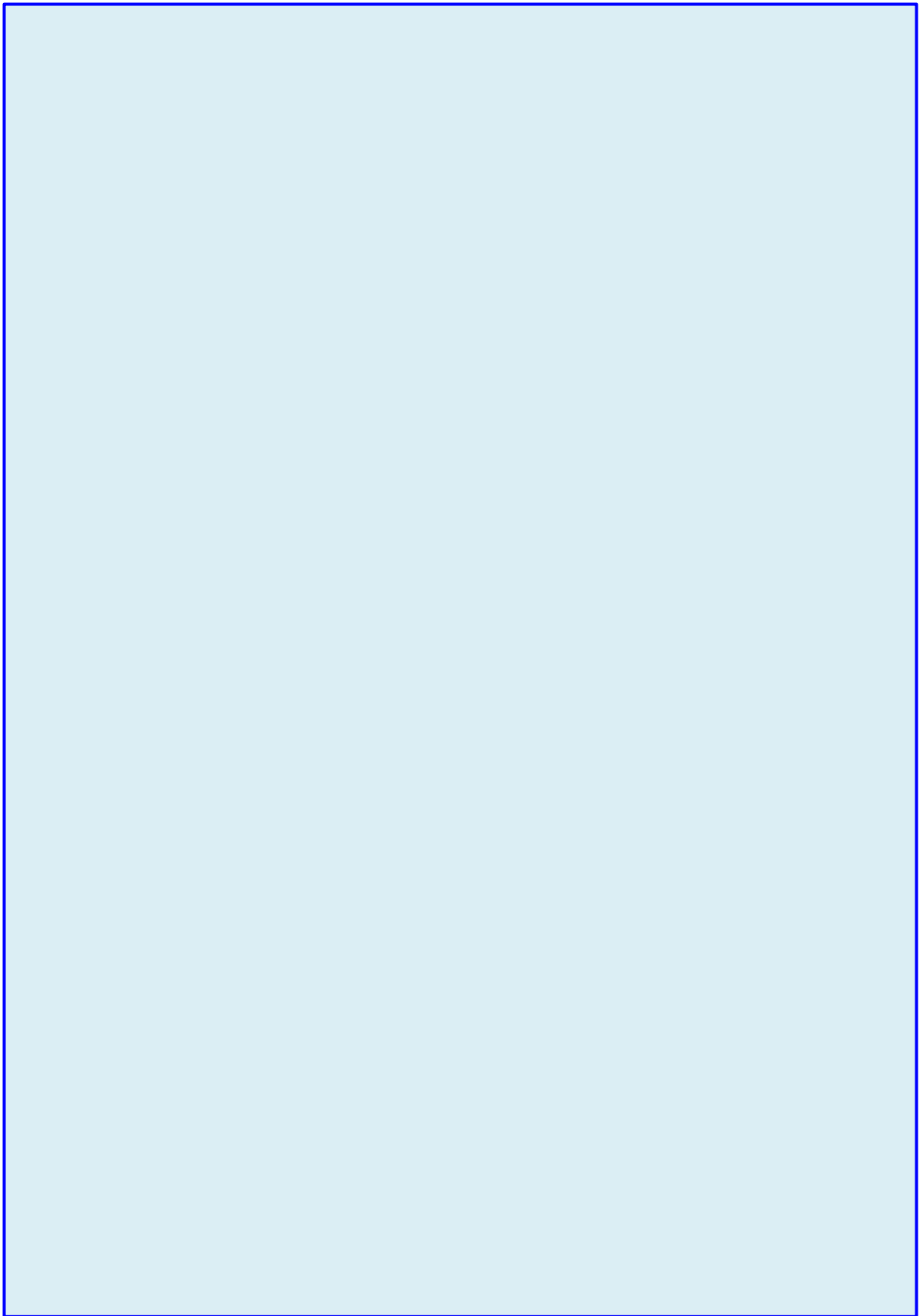
- ・自然災害の防止については、防災施設の整備と災害時における避難体制の確立が重要であり、避難路・避難場所等の整備を図るとともに、自主防災組織の活動を支援します。
- ・防災行政無線の再整備に取り組みます。
- ・総合防災マップの周知による防災意識の啓発、防災訓練の充実化など、市民と連携し、防災・減災対策に努めます。
- ・災害の発生時に備えて、他地域や近隣市町と連携した広域的な避難の受入れや応援について検討します。

②市街地の防災対策

- ・三瓶地域では、海岸部に立地する漁村集落が発展して市街地・集落が形成されており、津波による甚大な被害が懸念されていることから、災害時の安全性確保が課題です。
- ・津波から**短時間の避難が可能となる避難路**や避難場所の確保を図ります。
- ・また、市街地及び集落内では住宅密集地が多く分布しており、道路の確保・整備、建築物の耐震・耐火構造化や老朽住宅の改修・更新の促進により、地震や火災による宅地災害の防止に努めます。
- ・さらに、自主防災組織の確立と活動支援により、日頃からの防災意識の向上を図るとともに、万が一の被災に備えて、市民と協働した事前復興計画の策定等を検討します。

③土砂災害の防止

- ・土砂災害警戒区域・特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域など、土砂災害が懸念される区域等については、開発の抑制とともに、必要な土砂災害防止施設の整備を推進します。



■三瓶地域 整備方針図